

畑作・野菜・花き生産情報 第1号

令和2年4月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎ 小麦の生育が早まっているので、適期の追肥と病害虫防除で収量・品質を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は平年より早まっています。適期追肥とさび病、春腐病等の防除を徹底しよう！
- ◎ 施設内の温度変化が激しい時期です。適正な栽培管理により高品質な花きの生産に努めよう！

畑作物

1 消雪及び根雪の状況

- (1) 黒石市の消雪日は3月2日で平年に比べて21日早く、根雪期間は69日間で30日短かった。
- (2) 六戸町の消雪日は1月24日で平年に比べて50日早く、根雪期間は35日間で44日短かった。

表-1 消雪及び根雪の状況

場 所	年次	初日	終日	消雪日	根雪期間
農林総合研究所 (黒石市)	本年 (平年差)	12/24 (遅10日)	3/1 (早21日)	3/2 (早21日)	69日 (短30日)
	平年	12/14	3/22	3/23	99日
	前年	12/6	4/4	4/5	120日
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年差)	12/20 (早5日)	1/23 (早50日)	1/24 (早50日)	35日 (短44日)
	平年	12/25	3/13	3/14	79日
	前年	12/6	3/4	3/5	89日

注) 平年値は、農林総合研究所が平成18年～令和元年の14か年、野菜研究所が昭和55年度～平成21年度の30か年の平均値

2 小 麦

(1) 生育状況 (4月10日現在)

- ア 幼穂形成期は、平年よりネバリゴシで8～22日、キタカミコムギで20日早まっている。
- イ 草丈は、全般的に平年よりかなり長くなっている。茎数は、生育ステージが進んでいることから単純に比較できないが、ネバリゴシでは地点によりばらつきがあり、平年よりかなり少ないからやや多く、キタカミコムギはかなり少なくなっている。
- ウ 雪腐病は、ほとんど発生が見られない。また、うどんこ病は、ネバリゴシの一部

のほ場で発生が見られる。

表－2 小麦の越冬後の生育状況（4月10日現在）

場 所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	幼穂形成期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	19.8	759	3/18	23.1	698	3/23
	平年差・比	(117%)	(68%)	(早22日)	(112%)	(69%)	(早20日)
	平年	16.9	1,114	4/9	20.6	1,015	4/12
野菜研究所 (六戸町)	本年	27.0	1,127	3/19	/		
	平年差・比	(125%)	(82%)	(早10日)			
	平年	21.6	1,380	3/29			
つがる市 (木造)	本年	34.4	898	3/8	32.9	614	3/10
	平年差・比	(205%)	(104%)	(早16日)	(152%)	(71%)	(早20日)
	平年	16.8	860	3/24	21.7	869	3/30
十和田市 (相坂)	本年	24.3	1,300	3/26	/		
	平年差・比	(149%)	(105%)	(早8日)			
	平年	16.3	1,241	4/3			
	前年	21.4	1,753	4/7	/		

注) ①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(相坂)が生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去13か年(24年産(積雪のため未調査)を除く)、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去11か年(24年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)と十和田市(相坂)の「ネバリゴシ」が過去18か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去24か年の平均値。

(2) 今後の留意点

ア 転作田では、停滞水による湿害を防止するため、排水口や明きよの点検補修を行い、ほ場の排水に努める。

イ タンパク質含量を高めるために止葉抽出期から出穂期の間、2回目の追肥を実施する。追肥は表－3を参考に、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して時期と量を調整する。

ネバリゴシの追肥の判断基準は、平成19年度指導参考資料の『小麦「ネバリゴシ」のタンパク質含量を高めるための追肥は葉色値(SPAD値)で判断できる』(青森県庁ホームページで「普及する技術・指導参考資料について」検索)を参照する。

ウ うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に薬剤散布を行うと効果的である。ただし、アミスター20フロアブルは赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例があるため、出穂後は使用しない。

エ 赤かび病は、収量や品質の低下をもたらすばかりでなく、カビ毒を含むため、赤かび粒の混入割合が1万粒あたり4粒を超えると流通できなくなる。防除は、開花始めから開花期に1回目の防除を行い、その7日後に2回目の防除を行う。2回目の防除後、天候不順が続く蔓延のおそれがある場合は追加防除を行う。

表－3 追肥時期と追肥量

追肥時期	止葉抽出期(減数分裂期)～出穂期 (2回目)
追肥量	窒素成分で 2～4 kg/10a

野菜

1 にんにく

(1) 生育状況

ア 本年は消雪が平年より早かったことから、越冬後の生育は早まっている。草丈は、全域で平年を上回っており、葉数は、地点によるバラツキがあるものの、平年を上回っている。

イ りん片分化期は、平年より野菜研究所(六戸町)で10日、七戸町で8日、田子町で3日早く到達している。藤崎町では、りん片分化期に達していないが、今後、気象が平年並に経過すれば、平年より早まると予想される。

ウ 病害虫は、さび病が散見される。

表－4 にんにくの生育状況(4月10日現在)

場 所	年次	植付期	4月10日			りん片 分化期 (月日)	備 考
			草 丈 (cm)	葉数 (枚)	茎 径 (mm)		
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平比)	10/1 (1日早)	54.4 (132%)	8.4 (133%)	16.3 (122%)	4/11 (10日早)	透明マルチ
	平年	10/2	41.3	6.3	13.4	4/21	
	前年	10/2	41.3	6.7	13.5	4/20	
藤 崎 町 福 島 (旧常盤村)	本年 (平比)	9/14 (7日早)	32.0 (161%)	4.4 (122%)	— (—)	— (—)	無マルチ (平年、前年 の品種は福地 ホホワイト)
	平年	9/21	19.9	3.6	—	4/29	
	前年	9/18	15.3	3.4	—	4/30	
七 戸 町 榎 林 (旧天間林村)	本年 (平比)	9/25 (7日早)	40.2 (159%)	5.5 (138%)	16.1 (138%)	4/16 (8日早)	グリーンマル チ
	平年	10/2	25.3	4.0	11.7	4/24	
	前年	9/26	31.1	4.0	—	4/23	
田 子 町 日ノ沢	本年 (平比)	10/5 (3日早)	26.4 (113%)	3.5 (85%)	— (—)	4/20 (3日早)	黒マルチ (前年までは グリーンマル チ)
	平年	10/8	23.4	4.1	—	4/23	
	前年	10/7	24.4	3.8	—	4/21	

注) ①平年：野菜研究所は平成22～31年(令和元年)の10か年の平均値

藤崎町は平成9年～31年(令和元年)の23か年の平均値(品種が福地ホホワイトのため、参考値)

七戸町は平成8年～31年(令和元年)(平成25年を除く)の23か年の平均値

田子町は平成8年～31年(令和元年)の24か年の平均値(マルチが黒マルチのため、参考値)

②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14g）。藤崎町は白玉王（13～15g）。

七戸町は白玉王（14g）。田子町は白玉王（10～12g）。

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

（2）今後の留意点

ア 排水対策

排水が悪いほ場では、明きよを設置するなど排水対策を講じる。

イ マルチの補修

風などでマルチが浮き上がったり、剥がれている箇所は早めに補修する。

ウ 適期追肥の励行（追肥体系の場合）

2回目の追肥は、10a当たり窒素成分で5kgを目安に、りん片分化期等の生育状況を確認しながら適期に行う。

2回目の追肥時期：透明マルチ・・・りん片分化期後10日ごろ

黒マルチ・・・りん片分化期～りん片分化期後10日ごろ

エ 除けつ

1株に複数萌芽した株は、株の分離を確認後、株元の土を掘り、生育の良い方を残すように押さえ、他を引き裂くようにして抜き取る。

ただし、採種ほ場では抜き取りを行わず、そのまま生育させる。

オ 病虫害防除

さび病、春腐病の早期発見、早期防除に努めるとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

2 ながいも

（1）作業状況

消雪が早かったため、春掘作業は順調に進んでいる。

（2）今後の留意点

ア 掘取りは、作業条件の良いほ場から順次進め、芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。

イ トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。

ウ 種いもは、栽培法に合わせて準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月中旬に植付けする。

表－5 ながいも栽培法別の種いもの種類と重さ

栽培法	植付時期	種いもの種類	頂芽	重さ(g)
早植栽培	5月上旬	1年子	有り	35～45※
	4月下旬～5月中旬	1年子	有り	50～100
普通栽培	5月中旬～6月上旬	1、2年子	切除	100～150
	5月下旬～6月上旬	切りいも	切除	120～150

注) 早植栽培の50g未満の頂芽付き小種子は、ウイルスフリー由来のものを使用する。

3 トンネルだいこん、にんじん

(1) 生育状況

は種作業は、だいこん、にんじんともおおむね平年並に行われた。

だいこんの生育は、は種が平年より2日遅かったため、葉長、葉数ともに平年を下回っているものの、順調である。

表-6 春だいこんの生育状況(4月10日現在)

場 所	年次	は種期	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
おいらせ町 内山平 (旧百石町)	本年 (平比)	3/22 (2日遅)	5.9 (94%)	1.0 (55%)	透明ポリマルチ+ 透明ポリトンネル
	平年	3/20	6.2	1.8	
	前年	3/18	5.8	1.8	

注) ①平年:平成22年~31年(令和元年)の過去10か年の平均値。

②品種:春の星。

表-7 春夏にんじんの生育状況(4月10日現在)

場 所	年次	は種期	備 考
六戸町 上吉田	本年 (平比)	3/14 (1日早)	透明ポリトンネル
	平年	3/15	
	前年	3/5	

注) ①平年:平成22年~31年(令和元年)の過去10か年の平均値

②品種:彩誉7

(2) 今後の留意点

好天時はポリトンネル内を換気し、生育ステージに合わせた適正な温度管理に努める。

4 トマト、メロン

(1) 生育状況

苗の生育は順調である。

(2) 今後の留意点

ア 苗は、定植に向けて徐々に気温を下げて管理し、順化する。

イ 土壌水分が好適な時期に早めにマルチングを行って、地温の確保に努める。

ウ 苗が老化しないように計画的には場準備を進める。定植が遅れる場合は、苗が老化しないよう薄めた液肥を与えるなど適正管理に努める。

エ 降霜が予想される時や低温時には、二重被覆や暖房器具等で保温に努める。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 生育状況

8月上旬出荷の作型は、例年並の4月中旬から定植作業が始まっている。苗の生育は順調で、病害虫の発生は見られていない。

(2) 今後の作業

ア 育苗

- ・苗の親株の管理では、最高温度25℃を目安にハウスの換気に努める。また、苗の老化を抑制するため、電照またはエテホン剤の散布を行う。
- ・白さび病、灰色かび病の発生防止のため、定植前に薬剤の予防散布を行う。
- ・移植栽培の挿し芽は定植2週間前に行い、定植1週間前から徐々に温度を下げ、順化させる。

イ 定植

- ・病害虫の発生を防止するため、ほ場周辺の雑草や古株などの残さは、速やかに片づける。
- ・定植前にほ場に十分かん水する。また、定植後の活着を促すため地温の確保に努める。
- ・8月上旬出荷の作型では、定植を5月上旬までに行う。

ウ 定植後の管理

4月から5月は、天候が不安定でハウス内の温度変化が激しい時期なので、ハウスの開閉をこまめに行い、適正な温度管理に努める。また、低温や降霜が予想される時は、加温の実施や被覆資材で保温する。

2 トルコギキョウ

(1) 生育状況

- ・春定植における苗の生育は、一部ばらつきがあるものの概ね順調で、病害虫の発生は見られない。越冬栽培の作型で、一部に土壤病害の発生が見られる。
- ・定植作業は例年並の3月下旬から始まっている。

(2) 今後の作業

ア 育苗

- ・は種直後は発芽適温である20～25℃で管理し、発芽が揃った後は徐々に温度を下げ、15～20℃で管理する。
- ・育苗中は、用土が乾燥しないように適宜かん水する。

イ ほ場の準備

- ・事前にはほ場へ十分かん水しておき、土壤水分を見ながら定植2週間前までに施肥・耕起する。
- ・施肥は、土壤診断に基づき実施する。なお、土壤消毒を行ったほ場では、生育が過剰になる恐れがあるので、施肥量を減らす。
- ・活着促進のため、早めにマルチを張り、定植までに地温を確保する。

ウ 定植

- ・ 8月上旬出荷の作型では、定植を4月下旬までに行う。
- ・ 老化苗は生育が劣るので、展開葉4枚までの苗を定植する。
- ・ 定植は深植えとせず、また、株元を強く押さえないようにする。定植後は、苗と土をなじませる程度に軽くかん水する。

エ 定植後の管理

- ・ 発らいまでは乾燥させないように適宜かん水する。
- ・ 低温時には、トンネル、カーテン等により保温に努める。
- ・ 追肥は、生育の状況を見ながら、発らい期頃までに液肥で行う。

畑作・野菜・花き生産情報第2号は令和2年5月19日発行の予定です。

◎育苗中や定植間もない農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬は適正に使用しましょう。

1 使用する際は、必ず最新の登録内容を確認しましょう。

【農薬情報】 (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

【農薬登録情報提供システム】

詳細検索 → (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

作物名での検索 → (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。

2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。

家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。

堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。

3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。

4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→ (<http://cms.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/kachikuhunntaihiseizoukanritenminaooshi.html>)

◎農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを！！

農業保険には、農作物共済、園芸施設共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

1 農作物共済、畑作物共済

「農作物共済」は水稻・麦を対象として、「畑作物共済」は大豆・ホップを対象として、災害による収穫量の減少に対する損害を補償します。

2 園芸施設共済

「園芸施設共済」はガラス室・プラスチックハウスと附帯施設、施設内農作物を対象として、災害による施設被害と農作物の損害を補償します。

なお、「園芸施設共済」は生産者部会等の集団で加入すると掛金が割引になる等、各種割引メニューがあります。

3 農業経営収入保険

「農業経営収入保険」は、災害による減収に加え、市場価格の低下など農業者の経営努力では回避できない理由により販売収入が減少した場合も補償の対象になる総合的なセーフティネットです。(青色申告の実施が要件)

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。

体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。

- 1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。

連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
